

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：三重大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：城山 隆

住 所：〒514-8507 三重県 津市江戸橋 2 丁目 174

電話番号：059- 231 - 5018

F A X：059- 231 -5208

E - m a i l：psyl@clin.medic.mie-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(10) 人

■ 応募方法：必要書類を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

必要書類：

①三重大学医学部附属病院 精神科専門医研修プログラム応募申請書（兼履歴書）

②初期臨床研修中の業績リスト及び初期臨床研修で学んだ内容

①②の様式は下記の方法で入手してください。

(1) 三重大学医学部附属病院の website (https://www.doctor-mie.jp/mie_program.html)
よりダウンロード

(2)電話で問い合わせ(059-231-5018)

(3) e-mail で問い合わせ (p-kenshu@clin.medic.mie-u.ac.jp)

③医師免許証の写し

④卒業証書の写し又は卒業証明書

⑤初期臨床研修修了書の写しまたは修了見込証明書

宛先：〒514 - 8507 三重県津市江戸橋 2 丁目 1 7 4 番地

三重大学医学部附属病院精神科 岡田元宏

TEL：059-231-5018

FAX：059-231-5208

E - m a i l：psyl@clin.medic.mie-u.ac.jp

担当者：城山 隆（副プログラム統括責任者）

■ 採用判定方法：

書類選考および面接。採否を決定して本人に文書で通知します。

状況に応じ2回目以降の募集に関してはホームページを参照。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本プログラムでは、臨床精神科医として必要な知識・技能・態度を身に付けるための経験をすることを目標とする。

本施設群は 15 の施設群から成っている。各研修施設で推奨プログラムを作成し、いずれの施設を選択しても研修の質が標準化され、進捗状況も考慮して運用されるように構成されている。本プログラムは、多様な精神科研修を定められた期間に効率よく実施できるように配慮していることから、基幹施設を含めた 3 施設での研修を推奨しているが、専攻医の志向性に応じて柔軟な研修形式の選択が可能である。

基幹施設である大学病院では臨床的には難治例、器質・症状性疾患、身体合併症例、身体的危機の状況にある摂食障害、リエゾン症例、自殺企図・自傷行為で救急科に搬送されてきたケースなど他の身体診療科と連携するケースが多く、リサーチマインドを身に付けることも基幹病院で中心におこなう。

研修連携施設は 2 つの公的精神科病院、公的総合病院有床精神科、公的単科児童精神科病院、民間総合病院精神科外来、8 つの民間精神科病院、および県外の 1 大学病院から成る。公的精神科病院ではアルコール依存症や物質関連障害、早期精神障害などの治療プログラム、治療抵抗性・難治性精神疾患、司法精神医学（医療観察法病棟）などが充実している。公的総合病院有床精神科および民間総合病院精神科外来ではリエゾン症例や身体合併症症例を中心に他の診療科との連携を経験する。公的単科児童精神科病院は厚生労働省の「子供の心のネットワーク事業」の拠点病院であり、県内の児童思春期精神科領域のセンターとして子供の心の専門医療を経験できる。民間単科精神科病院には大規模・中規模病院が含まれ、いずれも地域精神科医療の中核病院である。急性期精神科救急医療から入院治療への一貫した治療の流れを経験し、豊富な症例経験を積むことが可能である。訪問看護、デイケア、アウトリーチ事業など併設施設も充実しており、多職種と連携する地域精神科医療を研修する。県外の大学病院では基幹病院とともにリサーチマインドの涵養とリエゾン・身体合併症症例を経験する。（詳細は、各施設概要を参照）。

上野病院（民間精神科病院）

大仲さつき病院（民間精神科病院）

熊野病院（民間精神科病院）

国立病院機構榊原病院（公的精神科病院）

総合心療センターひなが（民間精神科病院）

多度あやめ病院（民間精神科病院）

南勢病院（民間精神科病院）

久居病院（民間精神科病院）

松阪厚生病院（民間精神科病院）

松阪中央総合病院（民間総合病院精神科外来）

三重県立子ども心身発達医療センター（公的単科児童精神科病院）

三重県立こころの医療センター（公的精神科病院）

三重県立志摩病院（公的総合病院有床精神科）

愛知医科大学病院（県外の大学病院）

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：(按分前) 63 人 (按分後) 34 1/2 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	2462	823
F1	1074	331
F2	9454	2933
F3	7720	870
F4 F50	3777	282
F4 F7 F8 F9 F50	5443	293
F6	338	80
その他	220	80

2. 連携施設名と各施設の特徴

以下のページ (P 4 ~33) に各施設の特徴を記載する。

P4~7: 研修基幹施設

P8~33: 研修連携施設

いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

研修基幹施設

施設名	三重大学医学部附属病院
施設形態	大学病院
院長名	伊藤正明
プログラム統括責任者氏名	岡田 元宏
指導責任者氏名	城山 隆
指導医人数	5 人
精神科病床数	30 床



三重大学病院



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	101	9
F1	26	4
F2	340	32
F3	736	25
F4 F50	354	16
F4 F7 F8 F9 F50	150	13
F6	25	3
その他		42

施設としての特徴

施設特徴

三重県内唯一の、広域型総合病院の有床精神科診療施設として、三次救急医療における精神科医療を担っていることから、一般精神科としての外来(デイケアを含む)・入院精神科医療全般から、身体共存症を有する精神障害全般、身体管理を有する精神障害について学ぶことができる。施設の特異性から、外来診療による症例経験に趣をおいている。

複数のサブスペシャリティー研修施設認定も受けており、専門医取得後の多様な志向性に対応するよう努めている。mECTに加え、迷走神経刺激療法(VNS)、経頭蓋磁気刺激法(TMS)、高照度光照射療法など、特殊医療の実施も推進している。

薬物療法・精神療法だけではなく、統合失調症・気分障害へのコラージュ療法・当事者研究療法、発達障害に対するPICT、摂食障害に対する身体管理マニュアルを導入した心身医療も実施している。

リサーチマインドへの対応も、昼夜開講制度大学院を整備し、専門医・指定医・博士のキャリア習得にも配慮している併設施設等

精神科作業療法・デイケア、医療観察法指定通院医療機関・大学院・脳解析センター(BSAM)

疾病特徴

症例経験は、外来診療による修練が中心となるが、発達障害、知的障害、統合失調症、気分障害、物質依存、認知症、摂食障害など専門医取得に必要な症例数を確保している。

入院症例は、外来同様、発達障害、知的障害、統合失調症、気分障害、物質依存、認知症、摂食障害など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患について、十分な経験が可能であるが、次年度の大型地域精神科病院での研修に必要な精神科医療基本知識を習得できるようにプログラム化している。

専門医取得に必要な症例経験は、次年度の主要連携施設研修を加え、必要症例数をクリアできる。

対象疾病年齢に関しても、小児期から老年期に対応可能な体制を整備している。

特定機能病院としての特徴から、中勢地区の他施設腫瘍医療の精神科介入、緩和医療を担っているが、その他、移植医療、産業精神保健への経験機会も得られる

待遇・福利厚生

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要に迫られた場合の、支援体制も整えている。

志向性に応じ、リサーチマインドへの対応として、大学院・海外留学への支援・体制も整えている。

研修中の優遇措置

各種学会(国際学会を含む)、研修会への参加は、研修上有意義と認めた場合、制限を設けていない。

リサーチマインドを重視しており、大学院入学者には、連携協定に基づいた、別途体制を準備している。

スケジュール（週間・年間）

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～10:30	病棟	病棟	外来 (新患予診)	外来 (新患予診)	外来 (新患予診)
10:30～12:00	外来(再来) リエゾン	外来(再来) リエゾン	外来 (新患陪診・診察)	外来 (新患陪診・診察)	外来 (新患陪診・診察)
13:00～14:30	リエゾン	教授回診 新患カンファレンス "	病棟業務 精神病理学輪読会	病棟	病棟
14:30～16:30	病棟業務	症例検討会 退院報告会	脳波判読会	摂食障害 カンファレンス	脳波判読会
16:30～18:00	病棟業務 指導医 スーパーバイズ (クルズス*)	医局会 論文抄読会*	病棟業務 指導医 スーパーバイズ (クルズス)*	病棟業務 指導医 スーパーバイズ (クルズス*) (三重精神医学会*)	ドラッグインフォメーション 神経精神科学セミナー* 臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)

クルズスは週一回、三重精神医学会は年三回、論文抄読会は月一回、神経精神科学セミナーは月一回、臨床医学セミナーは月一回
指定医セミナーは不定期(希望時に開催)

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
4月 オリエンテーション SR1研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 研修医グラウンドラウンド(毎月開催) 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催) 三重精神医学会総会参加	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 日本児童青年医学会(任意) 日本認知・行動療法学会(任意) 日本精神病理学会(任意) 日本てんかん学会(任意) 日本精神科医学会(任意) アルコール・薬物医学会/依存神経精神科学会(任意) 日本デイケア学会(任意) 日本摂食障害学会(任意)
5月 クルズス(週1回 その年度の到達目標に合わせて)	11月 三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出 日本臨床神経生理学会(任意) 日本総合病院精神医学会(任意) 日本芸術療法学会(任意)
6月 日本精神神経学会参加 三重大学精神科教室同門会参加 日本老年医学会(任意) 日本司法精神医学会大会(任意) 日本神経病理学会(任意) 日本精神神経学会(任意)	12月 研修プログラム管理委員会開催 日本精神科救急学会(任意)
7月 日本うつ病学会(任意) 日本神経精神薬理学会(任意) 日本睡眠学会(任意) 日本外来精神医療学会(任意) 日本思春期青年期精神医学会(任意) 日本認知療法学会(任意) 日本神経科学会(任意)	1月 三重精神医学会参加 日本社会精神医学会(任意)
8月 地区大学合同研修会 日本精神科診断学会(任意)	2月 東海精神神経学会参加・演題発表 日本不安症学会(任意)
9月 三重精神医学会参加 日本生物学的精神医学会(任意) 日本神経化学会(任意) 日本家族研究・家族療法学会(任意) 日本生物学的精神医学会(任意) 日本サイコオンコロジー(任意)	3月 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会(任意)

神経精神科学セミナー(月一回)	
精神薬理	抗精神病薬/抗うつ薬/情動安定化薬/抗てんかん薬/その他向精神薬
病態生理	統合失調症/気分障害/代謝性疾患/変性疾患
その他	統計学/疫学/学会発表予演会

臨床精神医学セミナー(月一回)	
クルズの内容から、希望に応じてセミナー形式で、地域医療の標準化を図る	
専攻医の症例報告を行い、専門医・指定医として必要な、臨床精神医学に関する知識を身に付ける	

専攻医向けクルズの内容予定		
精神医学総論		精神医学各論 1(疾病学)
精神科症状学		・統合失調症
状態像の記載		・うつ病性障害
精神科面接		・うつ病性障害
精神科診断学		・双極性障害
心理検査		・症状性・器質性精神障害
薬力学(精神薬理学)		・睡眠障害
薬物動態学		・てんかん
神経精神生理学		・認知症(老年期精神医学)
精神保健福祉法		・強迫性障害
		・身体症状症
		・解離性障害
		・摂食障害
		・精神作用物質誘発性精神障害
		・児童思春期精神医学
		精神医学各論 2(治療学)
		・リエゾン精神医学(+精神腫瘍学)
		・集団精神療法(+S S T)
		・認知行動療法
		・mECT(+r TMS)
		・薬物療法

参加学会例	URL	群・単位
日本精神神経学会	https://www.jspn.or.jp/modules/meeting/index.php?content_id=4	A 群
日本精神神経学会・東海精神神経学会	https://www.jspn.or.jp/modules/evtCal/	B 群 1 単位
日本社会精神医学会	http://www.jssp.info/	B 群 1 単位
日本不安症学会	http://jpsad.jp/	B 群 3 単位
日本てんかん学会	http://square.umin.ac.jp/jes/	B 群 3 単位
日本精神科医学会	https://www.nisseikyo.or.jp/igakukai/	B 群 3 単位
日本デイケア学会	http://www.daycare-gr.jp/	B 群 3 単位
日本摂食障害学会	http://www.jсед.org/	B 群 3 単位
日本臨床精神神経薬理学会	http://www.jsenp.org	B 群 2 単位
日本臨床神経生理学会	http://jscn.umin.ac.jp	B 群 3 単位
日本総合病院精神医学会	http://psy.umin.ac.jp/content/document/rekidai_sokai.htm	B 群 3 単位
日本アルコール・アディクション医学会	http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/jmsas/	B 群 3 単位
日本精神科救急学会	http://www.jaep.jp	B 群 3 単位
日本老年精神医学会	http://www.rounen.org	B 群 3 単位
日本睡眠学会	http://jssr.jp	B 群 3 単位
日本児童青年精神医学会	http://child-adolesc.jp	B 群 3 単位
日本トラウマティック・ストレス学会	http://www.jstss.org/	B 群 3 単位
日本小児精神神経学会	http://www.jsppn.jp/	B 群 3 単位

産休・育休・長期病欠・介護・留学後のサポート（モデル例）



中断事例に関する対応は、基幹施設とプログラム管理委員会で行い、中断中の処遇の標準化を図る。

中断時の研修施設での再開を原則とする（中断中の待遇は、研修中断時の施設で支援）

支援困難な場合は、プログラム管理委員会の詳細を検討したうえで、支援を行う。

*中断時研修施設での復帰が、何らかの事情で困難な場合は、プログラム管理委員会の詳細を検討したうえで、研修施設の変更を検討実施する。

具体的なローテーションモデル（研修施設）は別紙（ローテーションモデル）を参照

その他の施設情報

日本精神神経学会専門医研修施設（専門医5名・専門医指導医5名）

日本てんかん学会てんかん専門医制度認定施設（専門医・指導医1名）

日本老年精神医学会専門医制度認定施設（こころと認知症を診断できる病院・施設に認定）（専門医1名）

日本睡眠学会認定施設（認定医1名）

総合病院精神医学会専門医・指導医（1名）

日本臨床神経生理学会認定医1名（脳波分野）

子どものこころ専門医（1名）

移植医療

移植患者は、慢性疾患患者特有の精神障害が共存している場合が多く、腎・肝移植ドナー・レシピエント希望者に対して精神科面談（スクリーニング）と、必要性に応じて精神的介入を行っている

行政医療

精神保健福祉法以外の、各種法令に定められた精神障害者への行政事例（事例性・疾病性・事件性）に対して、各種介入・支援・判定を行い、精神障害者の社会復帰を援助している

職域医療（産業精神保健・教育精神保健）

事業所内産業精神医学の補助者としての業務に加え、事業所外産業医へのセカンドオピニオンを担っている。

小さな多職種ミーティング

疑問に関して、「多くの指導医、前任医の前でディスカッションするのは苦手」、「指導医に質問するのは恥ずかしい・申し訳ない」と感じている専攻医に対して、認知行動療法・薬物研究に携わる看護師や、臨床心理士・保健師も配置しており、気楽な多職種ミーティングも可能な体制を整えている。

施設名	上野病院
施設形態	民間単科精神科病院
院長名	平尾 文雄
指導責任者氏名	平尾 文雄
指導医人数	4 人
精神科病床数	410 床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	347	166
F1	28	6
F2	507	259
F3	652	73
F4 F50	406	31
F4 F7 F8 F9 F50	102	18
F6	10	0
その他		

施設特徴

当院は、伊賀圏域で唯一の精神科専門病院として、地域医療機関や行政・保健福祉・教育および司法との関係が緊密で、幅広い症例が経験できます。入院精神科病床数 410 床と三重県下で 3 番目の規模の病床を有し、サテライトクリニック(しぎさんメンタルクリニック名張)、4つの大規模デイケア、2つの訪問看護ステーション、2つの地域活動支援センター、4つのグループホームなど多くの併設施設があります。このように数多いコメディカルスタッフの協力のもとでの地域ケア体制が充実していますので、外来での初診から入院、退院後のケアに至るまで、一貫した精神科医療を学ぶことが可能です。また 2005 年に病院を現地に新築全面移転しており、その際に電子カルテを整備し、院内歯科や理学療法室も備えるなどハード面も充実しています。また法人内に看護学校を有しており、その卒業生が看護スタッフの多くを占めるため、スタッフの精神科医療に対する情熱が強く、質の高いチーム医療が経験できます。身体合併症については、常勤内科医 2 名との連携のもと診療にあたっています。

併設施設等

関連外来クリニック(1 カ所)、大規模デイケア(4ユニット)、訪問看護ステーション(2 カ所)、地域活動支援センター(2カ所)、グループホーム(精神科 1カ所、認知症対応 3カ所)、精神科急性期治療病棟、認知症治療病棟、特殊疾患治療病棟、精神科作業療法、精神科救急輪番、医療観察法指定通院医療機関

疾病特徴

症例としては、地域性により認知症が比較的多いですが、伊賀・名張医療圏で唯一の精神科病院であるため、幅広い症例の経験が可能です。外来診療は、病院とクリニックで行っており、両方を担当できます。また病院外来では、認知症に対する「物忘れ外来」、うつ病等による休職中の外来患者に対するデイケアでの「リワーク(復職支援)プログラム」を行っており、それぞれの専門性を活かした診療が可能です。また臨床心理士による心理カウンセリングも、主治医の指示のもとに実施しており、精神療法を主とした治療も行えます。入院では、急性期治療病棟、認知症治療病棟、特殊疾患治療病棟など、8 つの病棟が各々に機能分化し、その特徴を活かした治療を行うことで早期退院につなげています。

待遇・福利厚生

年次有給休暇あり。また病気、出産などの場合は、研修継続への配慮、支援を行います。必要があれば、病院近隣での宿舍の提供も可能です。

研修中の優遇措置

学会、研修会は、精神科研修の一環として参加して頂けます。また研修に必要な図書は必要に応じ、病院書籍として購入可能です。医局では wifi によりインターネット閲覧が可能で、医中誌 web による検索も対応しています。研修中に経験した症例については、症例検討会にて多角的な視点からの指導を受けることができます。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来(新患) 予診、陪診	外来(再診) 陪診	外来再診診療	外来(新患) 予診、陪診	外来(再診) 陪診
13:00～15:00	病棟 デイケア業務	病棟業務	外来再診診療	病棟業務	病棟業務
15:00～17:00	病棟 デイケア業務	病棟業務 (チームケアカ ンファレンス*)	外来再診診療	病棟業務	三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)
17:00～18:00	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ (論文抄読会*)	指導医 スーパーバイズ (医局会*)	指導医 スーパーバイズ (症例検討会*)	

(*)は月一回

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
オリエンテーション ・関連施設見学 ・症例検討会・指定医レポート検討会・論文抄読会、 (毎月開催) 4月 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 三重精神医会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 ・日本児童青年医学会参加(任意) ・日本認知・行動療法学会参加(任意) ・上野病院祭講演会
5月 ・症例検討会・指定医レポート検討会・論文抄読会、 (毎月開催)	11月 三重精神医会(合同症例検討会)参加・演題提出
6月 ・日本精神神経学会参加(任意) ・日本老年医学会参加(任意)	12月 研修プログラム管理委員会開催
7月 日本うつ病学会参加(任意)	1月 三重精神医会参加
8月 地区大学合同研修会	2月 東海精神神経学会参加・演題発表 日本不安症学会参加(任意)
9月 ・しぎさんシンポジウム参加(任意) 三重精神医会参加 ・三重精神科医療フォーラム参加、演題発表(任意) ・日本精神科病院協会三重県支部夏期研修会参加 (任意) ・日本生物学的精神医学会参加(任意) ・症例検討会・指定医レポート検討会・論文抄読会、 (毎月開催)	3月 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ ・日本統合失調症学会(任意)

施設名	大仲さつき病院	
施設形態	民間単科精神科病院	
院長名	伊藤憲昭	
指導責任者氏名	伊藤憲昭	
指導医人数	2	人
精神科病床数	242	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	23	20
F1	9	13
F2	294	230
F3	340	57
F4 F50	186	15
F4 F7 F8 F9 F50	27	9
F6	4	3
その他	0	0

施設としての特徴

施設特徴

三重県の私的単科精神科病院であり、北勢地区の精神科の中規模的な病院である。入院医療は統合失調症を中心とした精神科一般であるが、認知症の入院症例も少なくない。統合失調症は急性期から慢性期まで多彩である。入院および通院で対応する疾患は一般的な精神科疾患であり、統合失調症圏・気分障害圏・神経症圏などをはじめ認知症圏を扱っている。措置入院、医療保護入院などの非自発的入院や行動制限を必要とする症例も多い。急性期治療病棟、療養病棟、特殊疾患治療病棟を有し、多職種によるカンファレンスも盛んである。地域支援サービスとして、退院支援、訪問看護を行っている。

併設施設等

精神科作業療法、精神科デイケア、訪問看護ステーション

疾病特徴

外来・入院とも、精神科の一般的な症例の経験が可能である。すなわち、統合失調症、気分障害、認知症、神経症や発達障害などである。長期入院患者の退院を促進するとともに、新規入院患者の8割は3ヶ月以内に退院をしている。

待遇・福利厚生

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要に迫られた場合の、支援体制も整えている。

研修中の優遇措置

各種学会、研修会の参加は、研修上有意義と認めた場合、制限を設けない。研修に関連する学会(国内)は年に2回まで、諸費を当院より援助する。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来(新患) 予診、陪診	外来(新患) 予診、陪診	外来(新患) 予診、陪診	外来(新患) 予診、陪診	外来(新患) 予診、陪診
13:00～15:00	病棟	病棟業務	病棟	病棟	病棟
15:00～17:00	医局会	病棟	勉強会	病棟	三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)
17:00～18:00	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
オリエンテーション ・関連施設見学	
4月 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 三重精神医会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
5月 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	11月 三重精神医会(合同症例検討会)参加・演題提出
6月 ・日本精神神経学会参加(任意)	12月 研修プログラム管理委員会開催
7月 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	1月 三重精神医会参加
8月 地区大学合同研修会	2月 東海精神神経学会参加・演題発表
9月 ・三重精神医会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	3月 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ

(年に4回、家族交流会あり)

施設名	医療法人紀南会 熊野病院	
施設形態	民間単科精神科病院	
院長名	福田 衆一	
指導責任者氏名	福田 衆一	
指導医人数	3	人
精神科病床数	330	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	444	235
F1	43	15
F2	527	245
F3	595	62
F4 F50	179	15
F4 F7 F8 F9 F50	110	9
F6	7	1
その他	てんかん 58 睡眠 8	てんかん 11

施設としての特徴

施設特徴

330床を有する単科精神科病院です。海と山に囲まれ、風光明媚な自然の中で地域精神医療に積極的に取り組んでいます。診療圏は和歌山県、奈良県、三重県の三県にまたがり、症例数は豊富です。患者及び家族と面談して良好な治療関係を維持しながら、得られた情報から自立して適確な診断と治療計画を作成できるように指導します。薬物療法や精神療法及び作業療法等を駆使して短期入院に努めると共に長期入院者の地域移行を促進します。デイケアや訪問看護及び社会復帰施設を利用して患者の地域での生活を支援して再入院を回避して行く方法を学びます。幻覚妄想状態の急性増悪、精神運動興奮状態、易怒性・被刺激性の亢進した躁状態、昏迷状態、自殺企図の切迫したうつ状態、錯乱せん妄状態等精神科救急医療を体験します。精神科救急輪番制に加入しており、夜間の救急対応も体験できます。月2回開催される地域の断酒会に院内の場所を提供し、精神保健福祉士を派遣して支援しています。断酒会に参加してアルコール医療を体験できます。神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(摂食障害含む)、さらにてんかんや睡眠障害も経験できます。当院は、高齢化率38%を超える地域にあって認知症疾患医療センター、認知症治療病棟を有し、認知症患者を抱える家族への支援を行い、同時に地域の開業医や施設とも連携しながら認知症医療にも力を入れています。最後になりましたが、自然に囲まれた当院での休日には熊野古道の散策や多数の釣りスポット又は太平洋に出て太公望という楽しみもあります。

併設施設等 精神科デイケア、医療観察法指定通院医療機関
地域型認知症疾患医療センター
介護老人保健施設 オレンジロードむつみ苑
相談支援事業所 オランジュ、指定共同生活援助事業所 熊野の里
尾鷲診療所

疾病特徴

外来及び病棟にて次の症例を担当します。

認知症、物質依存、統合失調症、気分障害、神経症性障害、摂食障害、パーソナリティ障害、知的障害、発達障害など専門医取得に必要な症例。認知症患者とその家族を地域で支えることや、精神障害者とその家族を地域で支えることに積極的に取り組み実践していきます。

待遇・福利厚生

医師住宅用意

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要がある場合の支援体制有り

研修中の優遇措置

学会参加・発表への支援体制有り

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	病棟業務	デイケア	外来(新患) 予診、陪診	外来 再来	社会復帰関連業務
13:00～15:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00～18:00	チームカンファレンス	病棟業務	論文輪読会	医局会 指導医 スーパーバイズ	三重大学神経精神科学セミナー * 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)

年間予定表						
	スケジュール項目				スケジュール項目	
	オリエンテーション ・関連施設見学					
4月	SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 三重精神医学会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)			10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催) (熊野病院祭 参加)	
5月	東紀州地域 認知症患者医療センター家族のつどい 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)			11月	三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出 東紀州地域 認知症患者医療センター 家族のつどい 参加	
6月	・日本精神神経学会参加(任意)			12月	研修プログラム管理委員会開催 三重断酒新生会 紀南(紀北)支部大会 参加	
7月	三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)			1月	三重精神医学会参加 東紀州地域 認知症患者医療センター 家族のつどい 参加	
8月	院内 症例報告・演題発表 地区大学合同研修会 (病院夏祭り 参加) (熊野大花火大会 見学)			2月	東海精神神経学会参加・演題発表 院内 症例報告・演題発表会	
9月	・三重精神医学会参加 三重精神科医療フォーラム 参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)			3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ	

施設名	国立病院機構榑原病院	
施設形態	公的単科精神科病院	
院長名	村田 昌彦	
指導責任者氏名	山本暢朋	
指導医人数	3	人
精神科病床数	222	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	65	18
F1	23	8
F2	228	124
F3	203	18
F4 F50	89	1
F4 F7 F8 F9 F50	21	8
F6	1	2
その他	0	0

施設としての特徴

施設特徴

三重県唯一の国立精神科単科病院であり、一般精神科医療に加えて、難治性精神障害や司法精神医学に力をいれている。Bio-psycho-socio の治療戦略をモットーにし、生物学的治療ではクロザピンやmECT、心理社会的治療では認知行動療法やケースフォーミュレーション、ケアマネジメント、SSTなどを重点化し、重症者の在宅支援(ACTアウトリーチ)やデイケアに力を入れています。精神科専門医療を整え、アルコール・薬物依存やギャンブル依存などの嗜癖行動プログラム、治療抵抗性統合失調症へ薬物療法、児童思春期のクリニックや病院と連携してこころの危機介入、認知症の周辺症状への精神医学的治療を行っています。司法精神医学部門では、県内唯一の医療観察法病棟(18床)が存在し、刑事精神鑑定(簡易・起訴前本鑑定・公判鑑定)の受諾件数は県内随一です。これら治療のために医師や看護師だけでなく心理療法士、作業療法士、精神保健福祉士、管理栄養士などによる多職種チーム multi-disciplinary team MDTが充実しています。国立病院機構グループに所属し全国14の機構病院と交流してテレビ会議システムを用いたクルズや専門研修を共有しています。他施設の各種研修会と連携し琉球病院、久里浜医療センター、肥前精神医療センターなどの研修に参加できます。臨床薬理学や司法精神医学、アルコール薬物依存医学分野を中心に活発臨床研究活動が行われています。今後は、精神科急性期治療病棟や、慢性期患者の社会復帰にも対して取り組んでいきます。

併設施設等

医療観察法病棟(18床)、作業療法室、デイケア室、地域医療連携室(訪問看護)

疾病特徴

すべての精神疾患が受診されますが、統合失調症、気分障害、アルコール薬物依存およびギャンブル依存など嗜癖症、発達障害や思春期症例、近隣医療機関より認知症、総合病院からの liaison-consultation 症例などが特徴です。郊外にあるという地理的な要素から、また手厚い医療で治療効果をえるために、治療抵抗性や難治例の症例が多く集まります。県内唯一の司法精神医学領域では精神鑑定から専門の医療観察法入院施設、通院施設としての統合失調症を始め多岐にわたる症例が集まります。

待遇・福利厚生

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要性に迫られた場合の支援体制も整えている。(院内保育所有り) 国立病院機構主催の各種研修に参加できる。

研修中の優遇措置

国立病院機構主催以外の各種学会・研修会への参加は、有意義と認められる場合は制限を設けていない。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
8:30~9:00	アルコール 依存病棟 カンファレンス	mECT	最小規制委員会 新患紹介と検討会	m E C T	児童思春期症例検 討会
9:00~ 12:00	一般外来 (再来・新患) 病棟業務	クロザピン外来・ 治験外来/ クロザピン 検討会	一般外来 (再来・新患) 病棟業務	一般外来/ 専門外来	一般外来(再来・新 患) 病棟業務
13:00~ 16:00	脳波判断会 病棟 指導医スーパー バイズ	画像判読会 病棟	薬物療法研究会 病棟 指導医スーパー バイズ	薬物療法研究会 医療観察法 治療評価会議(~15:30) Liaison-consultation 研修 指導医スーパー バイズ	NHOテレビ会議 クルズ (基礎・トピック ス) セミナー
16:00~ 17:00	専門療法委員会 DC運営委員会	医療観察法 倫理会議・運営会議	認知行動療法研修	治療プログラム会議	セミナー
17:00~ 17:30	自習	D S M 5 研究会 輪読会	症例検討会	自習	三重大神経精神科 学セミナー* 三重大臨床医学セ ミナー* (指定医セミナー*)

(その他) 9:00~12:00 精神科クリニック研修、16:00~17:00 自助グループ研修 (*) は月一回

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
4月 オリエンテーション アルコール問題 CRAFT(家族)研修 HAPPYプログラム研修 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 日本アルコール・薬物医学会参加・演題発表 包括的暴力防止プログラムCVPPPフォローアップ研修 三重精神科医療フォーラム参加・演題発表 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
5月 包括的暴力防止プログラムCVPPP研修 三重精神医学会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	11月 三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出 国立病院総合医学会参加・演題発表 包括的暴力防止プログラムCVPPP研修 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
6月 日本精神神経学会参加・演題発表 日本司法精神医学会参加・演題発表 三重大学精神科教室同門会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	12月 厚生労働科学研究班会議参加 研修プログラム管理委員会開催
7月 医療観察法関連職種研修会参加・演題発表 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	1月 三重精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
8月 厚生労働科学研究班会議参加 地区大学合同研修会	2月 東海精神神経学会参加・演題発表 厚生労働科学研究班会議参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
9月 三重精神医学会 日本アルコール関連問題学会参加・演題発表 日本病院・地域精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催)、 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	3月 包括的暴力防止プログラムCVPPP研修 SR1・2・3 研修報告書 総括評価、研修プログラム評価報告書作成 研修プログラム評価報告書の作成

施設名	総合心療センターひなが
施設形態	民間単科精神科病院
院長名	藤田 康平
指導責任者氏名	鈴木 康太
指導医人数	13 人
精神科病床数	498 床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	289	40
F1	114	51
F2	1739	368
F3	1950	162
F4 F50	1220	65
F4 F7 F8 F9 F50	604	28
F6	120	23
その他		

施設としての特徴

施設特徴

社会医療法人を経営母体とする急性期型の精神科病院で、三重県北勢医療圏域の精神科救急基幹病院でもある。救急入院病棟を2病棟、急性期治療病棟を1病棟有し、症例は豊富である。これらの病棟では3ヶ月間以内の退院を目指す。服薬中断などで再入院リスクの高いケースには入院時より重点的に多職種の支援強化プログラムを導入し、シームレスに退院後の訪問看護やデイケアなどのリハビリテーションに繋げている。クロザピンの登録医療機関であり、治療抵抗性統合失調症に対応している。アルコール依存症については、アルコール専門クリニックとの連携による入院治療を行い、個人ARPにより退院1年後の再飲酒率を低下させるなど成果を上げている。認知症についてはBPSDなど急性増悪期に当院での短期入院治療を行い、その後は地域包括ケアのネットワークで対応することになっている。サテライトのささかわ通り心・身クリニックでは急性期・亜急性期に特化した早期リハビリデイケアと、うつ病による長期休職者の復職支援を行うリワークデイケアを行っている。児童精神科では15歳以下の児童を対象に多様な病態に対応し、発達教室などの心理教育も行っている。今後の地域移行に対応するため訪問看護ステーションを立ち上げ、積極的な地域支援を行っている。

併設施設等：

電子カルテシステム、精神科作業療法、デイケア、デイナーケア、体育館、運動場、農耕・園芸用地、広域災害救急医療情報システム(EMIS)、三重県精神科救急医療北部ブロック情報センター

疾病特徴

救急・急性期から慢性期、児童・思春期から老年期にいたるまで、豊富な症例あり。
疾患分類においてもF0からF9まで幅広く分布し、症例に不足することはない。

待遇・福利厚生

当院常勤医の待遇に準ずる。
病気休暇・介護休暇・産休・育休など、研修を休止する場合の支援体制を備えている。
常勤の保育士が業務する院内保育所(0歳～3歳)もある。

研修中の優遇措置

全ての学会が出張扱いとなる。
年一回、学会出張費を病院が負担。

週間予定表(10~3月)					
	月	火	水	木	金
9:00~12:00	外来(新患) 予診、陪診	病棟 デイケア	外来(新患) 予診、陪診	病棟	外来(新患) 予診、陪診
13:00~15:00	レクチャー	初診入院回診	抄読会	脳波・睡眠 系統講義 (ARP)	レクチャー
15:00~17:00	自習	自習	医局会 新入院カンファ レンス	アウトリーチ 訪問看護	指導医スーパーバイズ 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)
17:00~18:00	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	

週間予定表(4~9月)					
	月	火	水	木	金
9:00~12:00	外来(新患) 予診、陪診	病棟 デイケア	外来(新患) 予診、陪診	病棟	外来(新患) 予診、陪診
13:00~15:00	自習	初診入院回診	抄読会	脳波・睡眠 系統講義 (ARP)	自習
15:00~17:00	病棟回診	病棟回診	医局会 新入院カンファ レンス	脳波判読会	指導医スーパーバイズ 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)
17:00~18:00	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
10月	4月
<ul style="list-style-type: none"> ・病棟オリエンテーション ・精神医学クルズ開始 ・リハビリテーションレクチャー ・薬局レクチャー ・電子カルテ操作習熟 ・精神保健福祉法レクチャー ・心理検査法, 身体的検査法レクチャー ・保険診療レクチャー 日本精神病理学会 参加(任意) SR1研修中間報告書提出 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション SR2前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
11月	5月
<ul style="list-style-type: none"> ・初診外来陪診 ・臨床脳波学, 睡眠学系統講義 ・副主治医として初診患者を担当 ・日本精神科病院協会学術大会 参加(任意) 	<ul style="list-style-type: none"> 三重精神医会総会参加(又は発表)
12月	6月
<ul style="list-style-type: none"> 研修プログラム管理委員会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神神経学会参加
1月	7月
<ul style="list-style-type: none"> 三重精神医会 参加(任意) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本神経精神薬理学会 参加(任意)
2月	8月
<ul style="list-style-type: none"> 東海精神神経学会参加・演題発表 ・主治医として慢性期患者担当 	<ul style="list-style-type: none"> 日本うつ病学会総会 参加(任意)
3月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・措置診察陪席 ・家族教室参加 ・復職デイケアフォローアップ参加 ・発達教室参加 ・保健所業務陪席 ・退院前訪問同伴 	<ul style="list-style-type: none"> 三重精神医会 参加(又は発表) SR2研修中間報告書の作成

施設名	多度あやめ病院	
施設形態	民間単科精神科病院	
院長名	平田 春夫	
指導責任者氏名	吉村 諭	
指導医人数	3	人
精神科病床数	222	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	68	52
F1	13	8
F2	224	173
F3	137	45
F4 F50	92	12
F4 F7 F8 F9 F50	17	7
F6	3	1
その他	0	0

施設としての特徴

施設特徴

三重県桑名市多度町(北勢医療圏)にある単科精神科病院であり、三重県北勢部、愛知県西部、岐阜県南西部における精神科医療を担っている。病床数は、精神科急性期治療病棟42床、認知症治療病棟60床、精神療養病床120床、合計222床を有し、また併設施設として、精神科デイケア・デイナイトケア、グループホーム(29室)、訪問看護ステーションを有し、社会復帰をサポートする体制を整備しており、入院及び外来診療において急性期から慢性期、地域移行支援まで、精神科医療全般にわたり経験しすることができる。

精神科急性期治療病棟では、職員・患者用クリニカルパスの導入、多職種ケースカンファレンスが行われ、チーム医療の実践を経験できる。また認知症治療病棟では、認知症の治療および介護との連携について経験できる。

画像診断は当院に設備はないが、近隣の大桑クリニックと連携し、随時頭部画像診断(CT・MRI)が実施でき、神経内科医師の診断を受けられる体制を整備している。また非常勤内科医師2名と非常勤皮膚科医師1名が勤務し入院患者の身体合併症や皮膚疾患(特に褥瘡治療)に対応し、精神科医師の負担軽減を図る体制を整備している。

基本的・実践的な薬物療法・精神療法に加え、心理士(常勤1名、非常勤2名)による各種心理検査、心理療法、カウンセリングを併用した治療経験ができる。

医療保護入院や措置入院などの非自発的入院例も多く、また近隣の精神科・一般科クリニックや総合病院、高齢者各種施設、行政との連携により、連携先からの入院依頼も多く、多彩な疾患、治療場面、診療形態が経験できる。

併設施設等

精神科作業療法、デイ・デイナイトケア、グループホーム、精神科訪問看護ステーション

疾病特徴

症例経験としては、統合失調症、気分障害、認知症、器質性精神障害、精神発達遅滞、発達障害については十分な症例数があり、精神作用物質による精神・行動障害やパーソナリティ障害については症例数がやや少ないが専門医取得に必要な症例数は確保している。

対象疾患年齢に関しても、小児期(中学生くらい)～老年期まで対応可能な体制を整備している。

精神相談事業などから地域での早期精神科的介入や施設・学校・行政など関係者を含めたカンファレンスなどで地域医療に参加する機会が得られる。

待遇・福利厚生

研修中のメンタルヘルスに対してもストレスチェックや管理者への相談・支援体制を整備している。

研修中の優遇措置

各種学会、研修会への参加は、研修上有意義と認められた場合は、参加費・交通費・宿泊費等の補助をする。

週間予定表

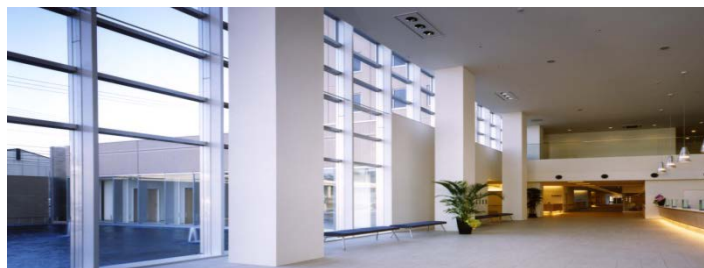
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来 再来	外来 再来	外来(新患) 予診、陪診	外来 再来	外来(新患) 予診、陪診
13:00～15:00	救急入院 症例検討会	救急入院 症例検討会	病棟業務	病棟業務	医局会 症例検討会 専攻医検討会
15:00～18:00	病棟業務 指導医 スーパーバイズ	病棟業務 指導医 スーパーバイズ	病棟業務 指導医 スーパーバイズ	医局会 指導医 スーパーバイズ	三重大学神経精神科学セミナー * 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)

- * 他院・施設等よりの紹介入院は、午前・午後とも随時受入れ、対応する。
- * 精神科救急の経験については、専攻医の希望を考慮し、精神保健指定医とともに副当直医として経験することができる。(副当直用の当直室あり、第1,4月曜日、当直明けは半日勤務)
- * 業務・研修に支障がないように、週に一日(水または木曜日)研修日を設ける。
- * 臨床知識・技能については、指導医が随時指導する。
- * ケーススーパービジョン(入院症例・外来症例を含む)は、可能な限り当日に(不可能な場合はその週内に)指導医が随時実施(方法としてはケースにより同席しての診察や診療録をもとに指導)、救急輪番日に入院があった場合は救急入院症例検討会、医局会時の症例検討会及び専攻医症例検討会では必ず指導医が専攻医にスーパービジョンを実施する。
- * 当院での研修期間終了時には(1年を超える場合は1年に1回)、指導医が専攻医の評価を行い、研修の進捗状況の把握とフィードバックを行う。
- * 専攻医の研修中に発生しうる問題・悩みについては、指導責任者が随時面接、フォローする体制とする。

年間予定表

スケジュール項目		スケジュール項目	
	オリエンテーション ・関連施設見学		
4月	SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 三重精神医学会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催) (多度あやめ病院祭(地域交流))
5月	三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	11月	三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出
6月	・日本精神神経学会参加(任意)	12月	研修プログラム管理委員会開催
7月	三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	1月	三重精神医学会参加
8月	地区大学合同研修会	2月	東海精神神経学会参加・演題発表
9月	・三重精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ

施設名	南勢病院	
施設形態	民間単科精神科病院	
院長名	齋藤 洋一	
指導責任者氏名	齋藤 洋一	
指導医人数	4	人
精神科病床数	205	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	227	47
F1	27	16
F2	454	216
F3	425	51
F4 F50	182	21
F4 F7 F8 F9 F50	68	22
F6	3	4
その他	10	5

施設としての特徴

施設特徴

当院は昭和48年5月に開設され、平成17年11月に新築移転。当初よりICTに積極的に取り組み、電子カルテシステムをはじめ看護システム・PACSなどを導入し、業務の効率化・能率化に努めている。

一般療養病棟を有する単科の精神科病院であり、外来医療及び入院精神科医療(診断、治療、リハビリテーション、社会復帰)について学ぶことができる。

松阪市に加え、三重県南部の伊勢・志摩地域と東紀州地域の精神科医療にも責務を負った精神科病院である。

松阪市を中心とした地域精神科関連施設との連携も、豊富なPSW資源を活用した体制を整えている。

身体他科との連携は、済生会松阪総合病院をはじめ松阪市民病院、厚生連松阪中央総合病院、松阪地区医師会医療機関等との体制を整えている。また、リエゾン精神科医療については済生会松阪総合病院との連携において習得が可能である。

常勤の神経内科医師を有し、パーキンソン症や認知症等の神経変性疾患や脳器質性疾患について両側面から精神科医療を学ぶこともできる。

下記のような各種指定ならびに関連施設での研修について、専門指導医の指導体制を整え、研修期間中に精神科研修が経験できるように整備している。

各種指定等

措置指定、応急指定、精神科救急輪番、デイケア
 デイナイトケア、ショートケア、精神科作業療法等

疾病特徴

入院症例は、統合失調症、気分障害、器質性精神障害、ストレス関連障害、発達障害、精神発達遅滞、物質依存、認知症、てんかん、摂食障害など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患について、十分な修練が可能である。

専門医取得に必要な症例経験は、基幹施設研修後であれば、当施設の1年で可能な体制を整えている。

対象疾患年齢に関しても、思春期から老年期に対応可能な体制を整備している。

神経内科医との連携体制を整え、内科的な疾病管理や口腔外科の疾病についても専門医の指導のもとに行われている。

待遇・福利厚生

研修期間は、常勤医師として勤務し、必要に応じて宿泊施設も提供できる。

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要に迫られた場合の支援体制も整えている。

会員制リゾートホテル(EXIV)の優待利用。

研修中の優遇措置

各種学会、研修会への参加は、研修上有意義と認めた場合、積極的に行っている。

リサーチマインドを重視しており、大学院入学者には、基幹施設との連携協定に基づいた別途体制を準備している。

週間予定表

	月	火	水	金	土
第一週 (午前)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)
第一週 (午後)	病棟(症例担当)	医局会 心理教育	病棟(症例担当) 作業療法	病棟(症例担当) カンファレンス 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)	病棟(症例担当)
第二週 (午前)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)
第二週 (午後)	病棟(症例担当)	医局会 リエゾン	病棟(症例担当) カンファレンス	病棟(症例担当) 訪問看護 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)	病棟(症例担当)
第三週 (午前)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)
第三週 (午後)	病棟(症例担当) デイケア	医局会 カンファレンス	病棟(症例担当)	病棟(症例担当) 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)	病棟(症例担当)
第四週 (午前)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)	外来 (陪席、予診含)
第四週 (午後)	病棟(症例担当) 精神科救急	医局会 症例検討会、発表	病棟(症例担当) カンファレンス	病棟(症例担当) 訪問看護 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)	病棟(症例担当)

年間予定表

スケジュール項目		スケジュール項目	
4月	オリエンテーション 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 日本てんかん学会学術集会 院内症例検討会、症例発表 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
5月	症例検討会 三重精神医学会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	11月	三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神学会参加 三重大学精神科教室同門会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	12月	院内症例検討会、症例発表 研修プログラム管理委員会開催
7月	院内症例検討会、症例発表 日本うつ病学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	1月	院内症例検討会、症例発表 三重精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
8月	院内症例検討会、症例発表 地区大学合同研修会	2月	東海精神神経学会参加・演題発表 日本不安症学会参加(任意) 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
9月	三重精神医学会・日本精神神経薬理学会・日本生物学的精神医学会参加、三重県精神科医療フォーラム演題発表、三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催)、三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	3月	SR1・2・3 研修報告書 総括評価、研修プログラム評価報告書作成 研修プログラム評価報告書の作成

施設名	医療法人 久居病院	
施設形態	民間単科精神科病院	
院長名	棚橋 裕	
指導責任者氏名	棚橋 裕	
指導医人数	3	人
精神科病床数	225	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	33	59
F1	1	1
F2	146	240
F3	261	65
F4 F50	137	8
F4 F7 F8 F9 F50	144	24
F6	9	5
その他		

施設としての特徴

施設特徴

基幹施設(三重大学)、三重県立こころの医療センター、独立行政法人国立病院機構榑原病院に囲まれる形で、津市の中央部に位置した単科精神科病院である。

精神科救急システムを介した、急性期治療病棟を中心とした、精神科医療全般について学ぶことができる。

特に、精神科救急システムでは、津市内で唯一の精神科救急輪番参加病院であり措置入院、応急入院を含め豊富な救急症例(精神疾患)を経験することができる。

津駅近隣にサテライト診療所を併設しており、外来医療に対しては、指導医とともに外来診療研修に対しても対応整備している。

津市の地域精神科関連施設との連携だけではなく、近隣の独立行政法人国立病院機構三重中央医療センターとの連携もあり、豊富なPSW資源を活用した体制を整えている。

認知症外来や児童思春期外来も開設しており、老年期や児童思春期の精神疾患に対しても十分な研修が可能な態勢を整えている。

精神科アウトリーチ事業へ参加しており地域精神科医療の実践的な研修を行うことができる。

併設施設等

応急指定、精神科作業療法、サテライトクリニック、訪問看護ステーション、グループホーム、デイケア、重度認知症デイケア、精神科アウトリーチ事業、精神科救急輪番、医療観察法指定通院医療機関

疾病特徴

入院症例は、統合失調症、気分障害、認知症が中心となり、基幹施設(三重大学)、県立こころの医療センター、独立行政法人国立病院機構榑原病院などの施設で研修したのちの実践的な研修に趣を置いている。

専門医取得に必要な症例経験は、基幹施設研修後であれば、当施設の1年で可能な体制を整えている。

待遇・福利厚生

研修期間は、常勤医師として勤務。

病気休暇・産休・育休など、研修を休止する必要性に迫られた場合の、支援体制も整えている。

研修中の優遇措置

各種学会(国際学会を含む)、研修会への参加は、研修上有意義と認めた場合、制限を設けていない。

リサーチマインドを重視しており、大学院入学者には、基幹施設との連携協定に基づいた、別途体制を準備している。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	申し送り 外来新患 (予診・陪席)	申し送り 病棟	申し送り 病棟	申し送り 外来 (新患・再来)	申し送り 外来 (再来)
13:00～17:00	病棟	デイケア 心理療法 認知行動療法 作業療法 (実習)	アウトリーチ 病棟 訪問看護 カンファレンス	病棟	医局会 症例検討会 神経精神科学セミナー* 臨床医学セミナー*
17:00～18:00	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	指導医 スーパーバイズ	(指定医セミナー*)

年間予定表					
スケジュール項目			スケジュール項目		
4月	オリエンテーション 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)		10月	SR2・3 研修中間報告書提出 院内症例検討会、症例発表 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	
5月	症例検討会 三重精神医学会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)		11月	三重精神医学会(合同症例検討会)参加・演題提出 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	
6月	日本精神神経学会参加 三重大学精神科教室同門会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)		12月	研修プログラム管理委員会開催	
7月	三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)		1月	院内症例検討会、症例発表 三重精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	
8月	地区大学合同研修会		2月	東海精神神経学会参加・演題発表 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	
9月	三重精神医学会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)		3月	SR2・3 研修報告書 総括評価、研修プログラム評価報告書作成 研修プログラム評価報告書の作成	

施設名	松阪厚生病院
施設形態	民間単科精神科病院
院長名	齋藤 純一
指導責任者氏名	奥 公正
指導医人数	8 人
精神科病床数	590 床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	359	69
F1	135	25
F2	3261	627
F3	541	104
F4 F50	137	25
F7 F8 F9	179	22
F6	80	30
その他		

施設としての特徴

施設特徴

当院は、精神科病床 590 床、一般病床 55 床、療養病床 115 床、緩和ケア病床 20 床、人工透析センター 38 床を備え、三重県中南勢地域の精神科中核病院です。また、日本医療機能評価機構認定、ISO9001 登録も取得しています。当院では統合失調症、気分障害、精神作用物質による精神及び行動の障害、認知症を含む器質性精神障害、児童・思春期精神障害、神経症性障害、パーソナリティ障害などの疾患について専攻医 10 名程度受入れ基準を満たす症例数を経験することが可能です。それぞれの疾患において精神科救急医療システムを通じた救急対応の技能習得、急性期、亜急性期から慢性期の様々な病態を経験でき、介護保険施設や社会復帰に向けた障害者支援施設も充実しております。訪問看護、デイケア、デイナイトケアも実施しており、生活を支える取り組みの理解が深まります。昨今高齢化に伴い重要性が増している身体合併症併発症例に対しても、9名の常勤内科医とも連携し対応しています。措置入院、応急入院、医療保護入院、任意入院、心神喪失者など医療観察法案指定通院医療機関など関連法規に従った入院、通院医療の実験を経験でき、関連法案、制度について学習できます。他に緩和ケア病床、透析センターでは、終末期や透析患者における精神医学の重要性を経験することも可能です。地域とは常に連携、情報交換を行い、認知症疾患医療センターとしても機能しています。研修指導医は 6 名在籍しており、精神生物学、中枢神経薬理学、精神病理学、司法精神医学、老年精神医学などの専門性を保持しています。最先端医学・医療を理解するため、学会発表、論文執筆への支援も行っています。

併設施設等

精神科作業療法、精神科デイケア、精神科デイナイトケア、医療観察法指定通院医療機関、三重県指定認知症疾患医療センター、応急入院指定病院、精神保健福祉法(措置)指定病院

疾病特徴

症例経験は外来、入院診療による修練となります。症例は幅広く経験することができ、統合失調症、気分障害、精神作用物質による精神及び行動の障害、認知症を含む器質性精神障害、児童・思春期精神障害、神経症性障害、パーソナリティ障害などの疾患について専攻医 10 名程度受入れ基準を満たす症例数を経験することが可能です。

症例の年齢に関しても児童期から老年期まで幅広く対応可能です。

待遇・福利厚生

待遇 規定による

福利厚生 労働者災害補償保険、厚生年金保険、健康保険、雇用保険、特別有休

研修中の優遇措置

研修上有意義と認められた際は各種学会、研修会への参加、発表を認めている。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	病棟 外来 (新患予診)	病棟 外来 (新患予診)	デイケア 病棟 外来(新患予診)	デイケア 病棟 外来(新患予診)	緩和カンファ 病棟 外来(新患予診)
13:00～15:00	病棟 外来 (新患予診)	病棟 外来 (新患予診)	病棟 外来 (新患予診)	病棟 外来 (新患予診)	病棟 外来 (新患予診)
15:00～16:30	病棟	病棟	病棟 多職種 チームカンファ レンス	病棟 多職種 チームカンファレンス	病棟 ケースカンファレンス 精神科医局会 合同医局会(第四週)
16:30～18:00	指導医スーパー バイズ 院内運営委員 会	作業療法 カンファ レンス	指導医スーパー バイズ	指導医スーパー バイズ	三重大神経精神科学セミナー* 三重大臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)

年間予定表					
スケジュール項目			スケジュール項目		
4月	オリエンテーション 関連施設見学 前年研修報告 指導医実績報告書提出		10月	日本精神科医学会学(任意) 日本てんかん学会(任意)	
5月	三重精神医会総会参加		11月	松阪地区精神医会	
6月	日本精神神経学会参加 松阪地区精神医会 日本老年精神医学会(任意)		12月		
7月	日本うつ病学会(任意)		1月	東海精神神経学会	
8月			2月	松阪地区精神医会	
9月	三重精神医会参加 三重県精神科医療フォーラム(任意)		3月	日本統合失調症学会(任意) 研修報告会 総括評価、研修プログラム評価報告書作成 研修プログラム管理委員会	

施設名	三重県立子ども 心身発達 医療センター
施設形態	公的単科精神科病院
院長名	金井 剛
指導責任者氏名	中島 弘道
指導医人数	3 人
精神科病床数	80 床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	4	
F1	3	
F2	26	1
F3	27	2
F4 F50	84	4
F4 F7 F8 F9 F50	3473	114
F6	12	1
その他(F5)	12	1

施設としての特徴

施設特徴

当院は、児童精神科単科病院です。厚生労働省の「子供の心のネットワーク事業」の拠点病院として位置づけられ、県内の児童思春期精神科領域のセンターとして、就学前から中学生までの入院治療や、併設の小中学校分校での教育連携、児童相談所とのネットワーク、思春期デイケアなど子どもの心の全てのケースに対応しています。

また、子どものメンタルヘルスに関わる、医療、保健、心理、保育、福祉、教育、司法など幅広い分野にわたり子どもの育ちを支える総合的な拠点病院として、子どもの心の専門医療の実践経験を積むことができます。

併設施設等

疾病特徴

①就学前から高校生年代の発達障害、精神発達遅滞、情緒傷害など、さまざまな問題をかかえる子ども(ケース)の診察治療の習得及び他機関連携が研修できます。

②研修期間中にF7-1例、F8-3例、F9-1例の症例数を準備できる予定です。

待遇・福利厚生

特になし

研修中の優遇措置

①精神保健指定医取得、日本児童青年精神医学会認定医取得といった資格取得のバックアップをしています。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来予診陪診 ケースカンファレンス	外来予診陪診 ケースカンファレンス デイケア	外来予診陪診 ケースカンファレンス	症例検討会 (8:00-9:00) 外来予診陪診 ケースカンファレンス デイケア	外来予診陪診 ケースカンファレンス
13:00～18:00	病棟業務 外来療育	病棟業務	入退院治療検討会議 退院報告会 病棟業務 外来療育	病棟業務	病棟業務 治療教育合同委員会(月1回) (15:00～16:00)

年間予定表						
	スケジュール項目				スケジュール項目	
4月	オリエンテーション 着任者研修			10月	日本児童青年医学会参加 日本認知・行動療法学会参加(任意) 学園祭 "	
5月	疾患別研修(週一回程度) 途切れない発達支援研修会			11月	拡大ケースカンファレンス CLMと個別の指導計画実践報告会"	
6月	日本精神神経学会 疾患別研修(週一回程度) 園内研究発表会 途切れない発達支援研修会			12月	研修プログラム管理委員会開催 自殺対策研修会 出張報告会	
7月	疾患別研修(週一回程度)			1月	拡大ケースカンファレンス 園内研究発表会	
8月	あすなろシンポジウム			2月	全国児童青年精神科医療施設研修会 拡大ケースカンファレンス	
9月	日本児童青年精神医学会 三重精神科医療フォーラム 園内研究発表会 "			3月		

施設名	三重県立こころの医療センター	
施設形態	公的単科精神科病院	
院長名	森川 将行	
指導責任者氏名	森川 将行	
指導医人数	3	人
精神科病床数	348	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	323	40
F1	619	173
F2	1370	270
F3	1407	111
F4 F50	408	41
F4 F7 F8 F9 F50	439	18
F6	30	4
その他		

施設としての特徴

施設特徴

認知症治療病棟、アルコール依存症治療病棟、スーパー救急病棟、急性期治療病棟を有する県立単科精神科病院である(348 床)。年間新規入院患者数約900人、入院を含む時間外診療を200件以上行っており三重県における精神科の中核病院である。認知症疾患医療センターとしても指定を受けており、日本老年精神医学会専門医制度認定施設となっている。また、アルコール治療においては、病院だけで治療が完結しないことを意識して、アルコール関連の団体等との連携を始め、家族の支援にも力を入れている。特に CRAFT (Community Reinforcement and Family Training)を意識したプログラムは家族自身が健康になることを意識しており、他の疾患の家族支援にも通じるものが多い。H27 年度から各都道府県で実施する計画となった物質関連障害に対する認知行動療法的な治療プログラムである SMARRP を H21 年から取り入れ、Tsu-MARRP としてアレンジして実施している。若者(15 歳～35 歳)を対象とした YMSC(ユース・メンタルサポートセンター)による初期精神病様症状への相談、対応を行っており、思春期の症例に前駆期から関与することができ必要に応じて早期介入し治療を経験できる。また、中学生や高校生を対象とした精神保健授業プログラムを年 10 数回実施している。作業療法が充実しており、復職に向けてのリワークプログラム、認知症リハビリテーションプログラムなどを経験できる。精神保健福祉センターと定期的な事例検討会を行っており、地域精神保健についても経験することができる。

併設施設等

精神科作業療法、デイケア、訪問看護、YMSC(ユース・メンタルサポートセンター)、認知症疾患医療センター、医療観察法指定通院医療機関、応急入院指定病院

疾病特徴

症例経験は、外来、入院共に十分な症例を確保できる。外来患者には思春期症例が多く、成人期の自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症も含め、全外来患者の約 1 割を占めている。統合失調症、気分障害に加え、アルコール依存症を含む精神作用物質による精神障害や器質性精神障害の症例を経験する機会が多い。

待遇・福利厚生

週40時間勤務の場合は、県の正規職員として採用され、県の定める給与に関する条例等の諸規程に基づき、給料及び各種手当が支給され、有給休暇や夏季休暇が付与される。また、地方共済組合員として健康保険が利用でき、公務災害も適用となる。病院が有する医師公舎にも入居できる。

研修中の優遇措置

研修上必要と判断される各種学会への参加の制限は設けておらず、旅費宿泊費等は別途支給される。久里浜医療センターや肥前精神医療センターで実施される国のアルコール関連研修への参加が当院では必須研修となっている。

週間予定表					
	月	火	水	木	金
8:30～9:00			抄読会		
9:00～12:00	アルコール新患 陪席	新患外来 陪席	デイケア リワークプログラ ム	物忘れ外来新 患 陪席	病棟業務
13:00～17:15	アルコール新患依存 症患者勉強会 (13:15～14:45)	新患外来 陪席 (13:30～ 15:30)	病棟業務	脳波判読会 (13:30～15: 30) (第一,三週)	こころの健康センター検討会* 三重大学神経精神科学セミナー*
17:00～17:30	医局会				三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*)
17:30～18:00	症例検討会	Drug information			

*月一回

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
4月 オリエンテーション 三重精神医会総会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 出張報告会 (しつこ祭り・病院祭り) 自殺対策研修会
5月	11月 三重精神医会(合同症例検討会)参加 アルコール依存症研修会(久里浜医療センターなど)
6月 日本精神神経学会参加(任意) 出張報告会	12月 研修プログラム管理委員会開催 自殺対策研修会 出張報告会
7月 認知・行動療法研究会参加 (病院夏祭り)	1月 三重精神医会参加 中勢認知症集談会
8月 出張報告会	2月 中高年のメンタルヘルス講演会
9月 ・三重精神医会参加 三重精神科医療フォーラム 参加	3月 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ

施設名	三重県立志摩病院	
施設形態	公的総合病院	
院長名	勝峰 康夫	
指導責任者氏名	松山 明道	
指導医人数	1	人
精神科病床数	100	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	90	37
F1	20	5
F2	270	95
F3	290	8
F4 F50	5	0
F4 F7 F8 F9 F50	45	0
F6	20	5
その他	0	0

施設としての特徴

施設特徴

当院は一般病床250床、精神科病床100床を有する中規模の総合病院である。開設者は三重県、運営は公益社団法人地域医療振興協会が指定管理を受けて行っている。また当科の病床は三重県伊勢志摩サブ医療圏では唯一の精神科病床である。そのため精神科全般にわたって外来診療および入院医療を行っていることに加えて、精神障害者の身体合併症治療を他科と連携して行っている。外来では臨床心理士(非常勤)を配置し、心理検査および心理カウンセリングを行っている。入院では作業療法士常勤2名を配置し、作業療法を行っている。外来・入院とも精神保健福祉士や看護師などとともに多職種によるケース検討会を定期的で開催している。

院内全体では医療倫理、医療安全、感染管理、医療経済、医事法制、接遇などに関する研修を行っている。運営主体である地域医療振興協会は全国で60有余の施設を運営しており、上記のテーマや地域医療に関する全体研修会とインターネットをつかった講演を開催しており参加可能である。

また、地元の医師会と協働して精神科医療に関する勉強会(こころの勉強会)を定期的で開催して病診連携をはかっている。

併設施設等

疾病特徴

地域で唯一の精神科医療機関であることから、外来では児童・思春期から老年期まで幅広く診療を行っている。疾患としては統合失調症、気分障害、認知症が入院・外来とも多く、専門医取得に必要な症例数に達することが可能である。

一般病棟におけるリエゾン・コンサルテーション精神医療を経験することが可能である。疾患としてはせん妄や抑うつ状態が多い。また院内全科の医師と地元医師会の医師とが協働して志摩臨床研究会を定期的で開催しており症例発表を行うことができる。

保健所や高等専門学校における精神保健相談を受託しており、受診前の相談業務を経験することも可能である。

地元自治体の認知症初期集中支援チームに参画しており、認知症患者さんへのファーストタッチから経験することができる。

待遇・福利厚生

正規職員として採用。福利厚生については、当院規定に準じますが、一部適用外もあります。

研修中の優遇措置

国立精神・神経医療研究センター 希望するプログラムに参加可
各学会 希望する学術集会に参加可

週間予定表					
	月	火	水	木	金
8:30～12:00	病棟 診療	外来 再診	外来 再診	病棟 診療	病棟 診療
13:00～17:30	外来初診(予診・陪席)	外来初診	外来初診(予診・ 陪席)	病棟診療	外来初診(予診・陪席) 三重大学神経精神科学セミナー* 三重大学臨床医学セミナー* (指定医セミナー*) (14:00～)

年間予定表	
スケジュール項目	スケジュール項目
4月 新入職者オリエンテーション、 電子カルテ操作指導、 精神保健福祉法講習会、 三重精神医会	10月 SR1・2・3 研修中間報告書提出 (精神科病棟運動会)
5月 鳥羽商船高等専門学校精神保健相談陪席(5～7月、 9～12月、1月)、 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)研修(年6回程 度)	11月 三重精神医会(合同症例検討会)参加
6月 日本精神神経学会参加(任意) 志摩臨床研究会	12月 志摩地域の医療を考える会、 志摩臨床研究会
7月 志摩医師会こころの勉強会、 伊勢保健所精神保健相談陪席	1月 三重精神医会、 伊勢保健所精神保健相談陪席
8月 (精神科病棟夕涼み会)	2月 志摩医師会こころの勉強会 志摩臨床研究会
9月 ・三重精神医会参加 三重精神科医療フォーラム 参加	3月 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 ・研修まとめ

【病棟診療】

医療保護入院・措置入院症例を中心に5～10名程度(指導医・上級医による指導)

【ケースカンファレンス】

第1水曜 15:30～16:30 7病棟
第2水曜 17:00～18:00 7・8病棟合同
第4水曜 15:30～16:30 8病棟

【精神科行動制限最小化委員会】・【精神科運営委員会】

第2月曜 15:30～16:30

【作業療法部会】

第1金曜 16:00～17:00

【外来カンファレンス】

第3木曜 10:30～12:00

【スタッフ】

松山明道 部長 三重大学博士(医学)
精神保健指定医
日本精神神経学会 精神科専門医・指導医
日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学特定指導医

施設名	松阪中央総合病院	
施設形態	民間総合病院	
院長名	三田 孝行	
指導責任者氏名	山寄 一正	
指導医人数	1	人
精神科病床数	0	床



外来デイケアルーム



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	22	0
F1	7	0
F2	16	0
F3	79	0
F4 F50	73	0
F4 F7 F8 F9 F50	6	0
F6	4	0
その他		

施設としての特徴

施設特徴	<p>当院は、昭和36年に開院、次第に増床して現在、一般440床の地域の中核病院として発展してきました。2次救急病院、基幹型臨床研修指定病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、小児救急拠点病院、災害拠点病院としての役割を果たす病院です。</p> <p>精神神経科は平成2年に新設され、常勤医師1名、精神科病床無しながらも、毎日外来を開催し、地域の精神科外来医療、コンサルテーション・リエゾン精神医療を継続してきました。</p> <p>本院における研修プログラムでは、精神科医として必須の基礎的な能力と共に、精神疾患と身体疾患の合併症例の治療、こころと身体の相関を体得すること、身体を病んだ人のこころに寄り添える人格を養うことを目標にしています。</p> <p>また、当院精神神経科は病床がありませんが精神科デイケアを併設し、精神科リハビリテーションを行っています。退院後のアフターケアとしての精神科デイケアのみならず精神科入院抑止のためのデイケアでもあり、集団精神力動を学ぶことができます。</p> <p>精神科病床が無い点については、精神科病院との連携で補いたいと考えています。</p> <p>併設施設等 精神科デイケア</p>
疾病特徴	<p>F3、F4を中心としますが、F2、F6も少なからずいます。F0、F1は他科との連携が多い領域です。初診患者から担当できること、リエゾン精神医療では、がん患者のメンタルケア、救急外来における自殺企図患者の対応などが研修の特徴です。</p>

施設名	愛知医科大学病院	
施設形態	私立総合病院 (特定機能病院)	
院長名	羽生田 正行	
指導責任者氏名	深津 孝英	
指導医人数	7	人
精神科病床数	47	床



疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	67	22
F1	6	4
F2	52	63
F3	77	67
F4 F50	225	27
F4 F7 F8 F9 F50	58	23
F6	10	2
その他	132	26

施設としての特徴

施設特徴	<p>当院は 893 床を有する大規模な病院であり、精神科はその内の 47 床を有している。主に難治性の症例を中心に統合失調症、気分障害、神経症性障害などの治療にあたっている。また、てんかん、認知症、児童思春期症例、身体合併症例、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。なお、当院は認知症疾患医療センターとして認定されており、認知症における精神科領域において重要な役割を担っている。入院症例に関する症例検討会のほか、臨床心理士との合同症例検討会、児童ケースの症例検討会、てんかん症例検討会も定期的に開催している。また、脳波の判読会、精神病理学の読書会は毎週行っている。</p>
------	---

週間予定表

	月	火	水	木	金
8:30～12:00	精神科病棟 身体科リエゾン	外勤	新患外来 (予診・陪診)	新患外来 (予診・陪診)	外勤
13:00～17:15	診療会議/教授回診 医局会/症例検討会	精神科病棟 身体科リエゾン	精神科病棟 身体科リエゾン	精神科病棟 身体科リエゾン	外勤
17:15～	脳波勉強会	精神病理読書 会	児童精神症例検討会 (不定期)	てんかん症例検討会 (不定期)	

修正型電気けいれん療法 随時

上記はスケジュールの 1 例であり、外勤の場所・曜日及び大学病院における外来日等については相談の上決定する。

年間予定表

スケジュール項目		スケジュール項目	
4月	オリエンテーション クルズス(毎週)	10月	日本てんかん学会(任意) 日本精神病理学会(任意)
5月	クルズス(毎週)	11月	日本総合病院精神医学会(任意)
6月	日本精神神経学会(任意) 日本老年精神医学会(任意) 不安抑うつ研究会(任意) クルズス(毎週)	12月	院内症例検討会、症例発表 研修プログラム管理委員会開催
7月	日本てんかん学会東海北陸地方会(任意)	1月	院内症例検討会、症例発表 三重精神医会参加 三重大学神経精神科学セミナー(毎月開催) 三重大学臨床医学・指定医セミナー(毎月開催)
8月	院内症例検討会、症例発表 地区大学合同研修会	2月	新春学術講演会
9月	日本児童青年精神医学会(任意)	3月	

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

1年目、2年目は豊富な症例経験を偏りなく経験することを通して臨床的な考察力を養い、経験すべき症例数の実績が2年目終了時までにはほぼ見通しがつくことを目指す。3年目には症例を通して考察したことを学会発表・論文執筆によって簡潔明瞭に表現できるように修練を積みながら、専攻医の興味・志向性に応じて多様な臨床現場を経験する。以下に基本的な到達目標を示す。

1年目：基幹施設あるいは連携施設で、指導医とともに統合失調症、気分障害、器質性精神障害のケースを経験し、精神医学的面接の方法、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。とくに面接では情報を抽出して診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法などのカンファレンス、セミナーに参加する。院内研究会あるいは施設群で指定した研修会で発表・討論する。

2年目：基幹施設あるいは連携施設で、指導医のスーパーバイズを受けながら自立して診療し、面接の技術を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。精神療法としてとくに認知行動療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応方法を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：基幹施設あるいは連携施設で、指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医専門研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科と連携することで医師としての責任や社会性、倫理観などについて多くの先輩医師や他職種の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査して考察を深める姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例のプレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。基幹病院では緩和医療や移植医療の関連診療科との症例検討会が定期的に行われており、医師としてのコアコンピテンシーを深める機会となる。さらに精神医学的面接による診断、精神療法、向精神薬の薬物療法、リエゾン・コンサルテーションの技術といった精神科医特有のコアコンピテンシーの獲得を目指す。

学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設・連携施設において経験した症例に関する考察を深め、学会発表や

論文執筆を通して簡潔明瞭に表現する力を磨く。プログラムの合同の症例検討会での発表や、抄読会・研究会への参加も奨励される。

専攻医の関心に応じた学会への参加が奨励される。

また、専攻医の興味・関心に応じて基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

自己学習

研修施設では文献検索に必要なインターネット環境や、専門雑誌の閲覧環境が整備されている。平素から経験症例を通して考察する過程で国内・海外の論文を検索し、理解して考察し、同僚とのディスカッションの課題を提示し、臨床現場に還元する習慣をつける。自己学習から得た情報を整理して保存し、抄読会での文献紹介、指導医とのディスカッション、院内研修会、学会発表、論文執筆につながるようなツール、方法論は基幹病院で臨床研究を行っている指導医から指導を受ける。

4) ローテーションモデル（別紙参照）

ローテーション・プログラムは基幹施設を含めて、各施設の推奨プログラムを設定しており、各専攻医のキャリアパス、地域性、ライフワークバランスに応じた柔軟なローテーション編成を可能としている。どのようなローテーションを選択しても研修の質が保証されるように、神経精神科学セミナー、臨床医学セミナー、および指定医セミナーを共通のスケジュールとしている。

研修開始は、基幹施設から開始するだけでなく、連携施設からの研修開始も可能である。ただし、プログラム構成上、基幹施設での研修を1～2年間経験することが望ましい。連携施設研修は1施設当たり、最低6か月の研修を行うように構成している。総合病院精神科外来には基幹・連携施設の常勤研修中に週1回程度の非常勤で研修することも可能である。基幹・連携施設の常勤研修中に、指導医による精神医療行政の研修（三重県立こころの健康センターの協力による）も可能である。各専攻医のローテーションの順序は、個々の専攻医の希望に応じるが、最終的には、研修の進捗状況を考慮し、プログラム統括責任者を中心とするプログラム管理委員会において承認することとする。

本人の希望を考慮しつつ地域の事情にも配慮し、かつ必要な症例を研修できるようにする。特に、家庭的な事情で、研修に不都合が生じた場合（出産・育児・疾病、家族の事例など）にも、各研修医の状況・希望に応じた、受け入れ態勢可能な施設の選定を行うことで、専攻医と指導医（研修施設）でのプログラム相互構成に心がける。

5) 研修の週間・年間計画：「II 2. 連携施設名と各施設の特徴」の各施設の記載を参照

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

岡田元宏（三重大学医学部附属病院 教授 プログラム統括責任者、管理委員長）
城山 隆（三重大学医学部附属病院 講師 プログラム副統括責任者）
平尾文雄（一般財団法人信貴山病院分院 上野病院 院長）
伊藤憲昭（医療法人大仲会 大仲さつき病院 院長）
福田衆一（医療法人紀南会 熊野病院 院長）
村田昌彦（独立行政法人国立病院機構榊原病院 院長）
鈴木康太（総合心療センターひなが 部長）
吉村 諭（医療法人社団橘会 多度あやめ病院 医局員）
齋藤洋一（南勢病院 院長）
棚橋 裕（医療法人 久居病院 院長）
齋藤純一（松阪厚生病院 院長）
山寄一正（松阪中央総合病院 部長）
森川将行（三重県立こころの医療センター 院長）
中島弘道（三重県立子ども心身発達医療センター 医長）
松山明道（三重県立志摩病院 部長）
深津孝英（愛知医科大学病院 精神神経科 講師）

・プログラム統括責任者

岡田元宏（三重大学医学部附属病院 教授）

・プログラム副統括責任者

城山 隆（三重大学医学部附属病院 講師）

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および指導医、専攻医、多職種（看護師、精神保健福祉士など）によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

岡田元宏（三重大学医学部附属病院 教授 プログラム統括責任者、管理委員長）
城山 隆（三重大学医学部附属病院 講師 プログラム副統括責任者）
平尾文雄（一般財団法人信貴山病院分院 上野病院 院長）
伊藤憲昭（医療法人大仲会 大仲さつき病院 院長）
福田衆一（医療法人紀南会 熊野病院 院長）
村田昌彦（独立行政法人国立病院機構榊原病院 院長）
鈴木康太（総合心療センターひなが 部長）
吉村 諭（医療法人社団橘会 多度あやめ病院 医局員）
齋藤洋一（南勢病院 院長）
棚橋 裕（医療法人 久居病院 院長）
齋藤純一（松阪厚生病院 院長）
山寄一正（松阪中央総合病院 部長）

森川将行（三重県立こころの医療センター 院長）
中島弘道（三重県立子ども心身発達医療センター 医長）
松山明道（三重県立志摩病院 部長）
深津孝英（愛知医科大学病院 精神神経科 講師）
浜口栄子（三重大学医学部附属病院 精神科神経科病棟 看護師長）
堀井真由美（三重大学医学部附属病院 精神科神経科外来デイケア 精神保健福祉士）

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医指導医が確認し、その後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿/システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

研修実績管理システムに実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。三重大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した研修専門指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- ・ 専攻医研修実績管理システム

研修実績管理システムに研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成標に従って、各分野形的自己評価おこなうこと。研修を了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医によるとフィードバックの記録

専攻医自身が分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は不十分な評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。労働基準法および医療法を順守し、三重大学医学部附属病院および連携施設の労務管理基準および就業規則等に従います。

基幹施設ではハラスメント委員会が院内に設置されています。基幹施設の敷地内に保育所があり、利用可能です。

専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。

精神科研修プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。さらに、専攻医および指導医は指導施設の評価もおこない、その内容は精神科研修プログラム管理委員会に報告され、適切に改善を図ります。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠し、各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会等で管理します。ローテンションモデルとして産休・育休・長期病欠・介護・留学後のサポートモデル例（プログラム冊子P7）の中でも提示しているように、精神科研修プログラム管理委員会で検討して心身ともに健康状態に応じた柔軟な研修体制を整えます。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年一回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。